

# 「仲間を誇りに思う」

## 「共に生きる」ことの本当の意味

青山学院第二高等部を継ぎ、建学の精神「敬神愛人」の下、キリスト教に基づいた人間教育を行う。学習面においても、補習時間であるB. L. T. (ベーシックラーニングタイム) や反復演習で学習の定着を図るA. L. T. (アドバンスラーニングタイム) といった放課後学習システムで、一人ひとりに合わせたきめ細かな指導を行う。また、「プレゼンテーション試験」や「学術研究入門」といった取り組みを通じ、論理的思考力、批判的思考力、表現力の向上を図り、グローバル社会へ羽ばたくための礎を築く。

体育祭



合唱コンクール



縦割り遠足

くて、英語もがんばって勉強している。私が中3のときには一学年68人中、27名がオーストラリア研修に参加しました」と中村君。また、春休みや夏休みを利用して、英語力の高い生徒や帰国生を対象にインターナショナルスクールでのボランティアも行っている。ネイティブの先生の英語を、英語が不得手な幼稚園児や小学生たちのためにより簡単な英語表現、あるいは日本語に訳すことが仕事。参加した加藤美空さん(中3)は「最初は間違えたら恥ずかしいかと思っていたんですけど、とりあえず話さなきゃという気持ちが大きくなって、自分から話しかけられるようになりました。自分が話した英語が相手に伝わり、とても達成感があった良かったです」と話す。同じく中村真子さん(中3)は「自分が思ってい



中学2年 清里自然教室



たよりもしゃべれなくて。こんなにできなかったんだと実感しました。だから、もっと勉強しないとと思って、自分でいろいろ勉強始めました」。こう話す彼女は「いろんな人とかわわっていきたい。その幅を広げるためには、英語は重要だ」と言う。

同校でもう一つ、入学してすぐに行われるのが、縦割り遠足。いろんな学年の人としゃべれるのは面白いし、その後の行事で一緒にいると声をかけてもらえる」と加藤さん。同校は行事の数が多い。生徒が主体的に運営することを重視している。そのため、話し合いの場がとても多く、人と人とのかわわりが密である。「団結力が強い学校だと思えます。人数が少ないから、顔を見たことがある人が多いので、「コミュニケーションも取りやすい」と中村さん。

「同じ学年のメンバ、先輩、後輩、先生。いい方たちに恵まれていると思います。私は小さい時は、言いたいことも言えなくて、自分でため込んでいたタイプでした。でも、大好きな人たちに囲まれて、この人たちと一緒に良い学校生活を送りたい、自分が引っ張っていくぞ! という思いが強くなり、学級委員や生徒会長をやらせてもらいました」。中村君は最後にこう言った。「みんなが自分の目標に向かっていっている。私は仲間をすごく誇りに感じています」。真っ直ぐな言葉はやさしく、明るく、大らかな空気の賜物なのである。



文化祭の中3沖縄体験発表・エイサー公演は学院の伝統に



地元の上町商店街と連携しサポーター育成事業を実施。文化祭では野菜を販売

「実は中学の時に、学院の営業部長と呼ばれていたんですよ」。笑いながらそう話すのは中村一哉君(高二)。生徒会長を務め、学校説明会などで活躍していたことから、その称号を得たという。そんな彼に帰国生を対象に同校をアピールするとしたら? と聞くと、こんな答えが返ってきた。「まずは語学研修プログラムが充実していること。それから、人と人とのかわわりがすごく良いということ」

同校では、中学に入学してすぐに、合同留学説明会が実施され、長期留学を勧めている。「共に生きる」を教育目標として掲げ、多様性を尊重する同校では、海外に目を向けさせ、学習意欲の向上を図るためにも、1年間の留学を積極的に勧めている。他にも希望者を対象としたオーストラリア語学研修プログラムがあり、さらに済州島サマースクールなども紹介している。海外に興味がある人が多



オーストラリア語学研修ではアジアの英語にも触れる